子どもの携帯電話・ネット依存解決

ポートフォリオが味方

提唱の加納准教授 山形大で公開講座

携帯電話やインターネットは、大人が想像する以上に子どもの心をとらえている。だから危ういそんな問題意識から、携帯電話やネットに費やす時間、労力を子ども自身に客観的に考えさせる教育ツールがある。「ケータイ・ポートフォリオ」という。提唱者の加納寛子山形大准教授(38)=情報学=らによる公開講座がこのほど、山形市の山形大であった。

ルール作り自己分析

目標達成 自信につなげる

ポートフォリオとは、自分の努力や試行、問題解決に至る過程などを書き込み、後から自己分析に用いる記録。欧米の教育界で導入され、加納准教授がケータイ教育への応用法を考案した。

主に用意するものは①ケータイ契約書②毎日の記録③チェックリストの三つ。①は電話会社の契約書ではなく、親子でケータイの利用目的や利用法を話し合い、内容を記した覚書。さまざまなルールを親が押しつけてしまいがちだが、「子どもに作らせることが大切」と加納准教授は言う。

契約は個条書きにし、各項目の達成内容を②に毎日記録する。③はメールの送受信内容や、その時の気持ちを書き込む。

福島高専(いわき市)の布施雅彦准教授(38)と、東京都大田区大森三中の大山圭湖教諭(54)は今年5～7月、ポートフォリオを実践した。

福島高専は1年生42人が参加。同校は授業や部活動などに電子掲示板を積極的に活用し、ケータイか小型ノートパソコン、携帯型情報端末のいずれかを必ず生徒に持たせている。中学時代はケータイを持たなかった生徒も多く、「デビュー期」にポートフォリオに挑戦した。

①のケータイ契約書では、ケータイは親からの借り物と位置づけ、約束が守れなければ返すことを明記し、署名する。条項の筆頭は利用目的で、「友人や家族との連絡」「友達との良好な関係づくり」「音楽再生」などほぼ共通している。

第2項以降はルール。「危険なサイトは使わない」「親からの連絡は無視しない」「利用料金は1カ月8000円以内」など一人一人違う。

布施准教授はチェックリストや記録から「生徒が目的やルールを自分で決めたことで、何となくケータイに向き合う時間が減り、自分を律することへの自信がついた」と分析した。

大山教諭は担任する2年生を指導した。「頭ごなしに自己管理を求めても素直に受け入れるわけがない」(大山教諭)ため、テレビやネットを含むメディアに費やす時間の自己分析から着手。生徒同士の話し合いを積み重ね、ケータイの特性や問題点などを学びながら、その過程でポートフォリオを示した。

大山教諭は「生徒間の討論で『メールでしか言えない本音』がテーマになり、それは結局悪口だからやめようという結論が出て、目からうろこが落ちた」と紹介。「以前は学校でケータイの話題は避ける傾向があった。意見交換を通じて依存を自覚し、生活改善した生徒もいる」と語った。

ケータイ契約書(例)

1) 私がケータイを持つ目的は、友達や先輩との連絡、会話です。
2) 利用は1日1時間以内にします。
3) 利用料金は1カ月3000円以内にします。
4) 相手が嫌な気持ちになるような内容のメールは送りません。
5) 困ったときは親に相談します。

以上の契約を破った場合は、契約を取り消したものとみなし、ケータイを返却します。

契約日
署　名

(加納准教授らの資料を基に作成。内容は必ず生徒が自分で考える)

教育